

政策番号 政策名

211 美しいまちをつくる

政策の方向

京都が魅力あふれる美しいまちであり続けるため、規制の強化のみによるのではなく、住民みずからが取り組む活動に対する支援を行うなど、まちの美化を進めるとともに、地域の個性や自然・歴史的な条件を十分に考慮して、景観や緑地の保全と向上に努める。  
 このようにして、自然・歴史的な風土と調和したまちを保全・再生するとともに、京都の華やぎを後世に伝える新しい景観を創造するための取組を進める。

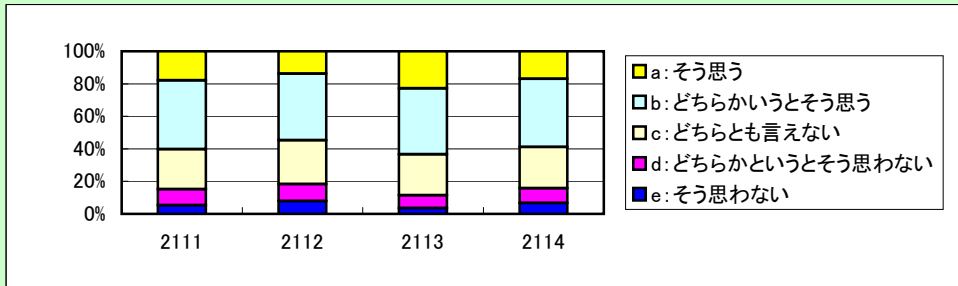
政策の評価

1 政策の評価に用いる客観指標の最新値と評価

施策番号	客観指標名	20		21		22	
		数値	評価	数値	評価	数値	評価
2111	放置自転車の台数（台）	7896	d	7896	d	4200	a
2111	まちの美化推進住民協定の締結数（件）	324	c	336	c	357	b
2112	電柱をなくし管路を道路に埋設した延長(km)	2.18	d	2.3	d	1.76	d
2113	河川整備（%）	54.4	b	54.8	b	55.8	b
2113	市民1人当たりの公園面積（㎡/人）	-	-	4.68	-	4.69	a
2114	杣人工房の利用者数（人）	6783	d	7881	e	7997	e
2114	戸建住宅の着工件数に占める木造住宅の割合（%）	90.6	b	91.1	b	92.5	b
客観指標総合評価			c		c		b

2 政策を構成する施策に対する市民生活実感評価

施策番号	設問	評価		
		20	21	22
2111	まちに散乱ごみが少なくなってきた。	b	b	b
2112	京都の個性的なまちなみ景観が守られている。	c	b	b
2113	京都は水と緑をうまく生かしたまちである。	b	b	b
2114	まちなかには文化を感じさせる木造建築がきちんと残っている。	b	b	b
市民生活実感総合評価		b	b	b



### 3 総合評価（市民生活実感総合評価＋客観指標総合評価）

<b>B</b>	客観指標については、全7項目のうち2項目で評価が上がり、全体としては良い状況となった。 市民生活実感については、4項目全てがb評価となり、昨年度に引き続きよい状況である。 こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。	20年度	B
		21年度	B

### 4 政策の重要度（27政策における市民の重要度）

20年度		21年度		22年度	
順位	%	順位	%	順位	%
13	13.8%	13	14.9%	12	16.0%

### 5 原因分析・今後の方向性

<p><b>【原因分析】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・客観指標については、電線類地中化と柚人工房の利用者数が伸び悩んでいるものの、放置自転車の台数が大幅に減少したのをはじめ、全体としては堅調に推移している。</li> <li>・市民生活実感については、昨年度に引き続き、全ての項目でb評価と高い評価結果となっており、新景観政策の取組など各施策の着実な推進の成果が表れてきていると考えられる。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も京都が魅力あふれる美しいまちであり続けるために、市民・事業者と一体となったまちの美化活動などの取組を一層推進するとともに、厳しい財政状況にあって多額の経費を要する電線類地中化などの事業を進ちょくさせるために、国からの助成を要望していくことが必要である。</li> </ul>
--

### （参考）この政策を実現するための施策とその総合評価

施策番号	施策名 施策概要	評価結果		
		20	21	22
2111	市民、事業者と一体となったまちの美化の推進	C	B	B
	一人一人がごみを捨てない、また、捨てさせないという市民意識を醸成し、監視・指導の強化や公園・河川等の美化活動を促進するなどにより、まちの美化の推進に取り組み「世界一美しいまち・京都」を実現する。			
2112	個性的で美しい景観の形成	C	C	C
	自然・歴史的な景観の保全、市街地のきめ細かな景観づくりを推進し、個性的で美しい景観を形成する。			
2113	水と緑を生かしたまちづくり	B	B	B
	自然や歴史環境を生かした公園や水辺環境の整備などを推進し、水と緑を生かしたまちづくりを進める。			
2114	木の文化が息づくまちづくり	B	C	B
	町家や社寺などの伝統的な木造建築物や、漆器や木工品などの木の文化を守り育てるため、木造建築物の建設の誘導、技能の継承支援などを進める。			